

只見線を応援する気持ちを形に

町に只見線の模型を寄贈

県で行った「ふくしま新発売。」復興プロジェクトのイベント時に協力をいただいた、あらかわ遊園さん(東京都荒川区)は、只見線のファンの方々、全線復旧に向けて活動している皆さんの力になりたく、あらかわ遊園の伊藤館長が只見線キハ40系気動車の模型を製作され、2月4日に町に寄贈していただきました。

また、兵庫県在住の森昌彦さんにも、大好きな只見線を応援するためにユネスコエコパークと縁結び列車のラッピング車両模型を制作いただき、2月13日に町に寄贈していただきました。

只見線キハ40系気動車の模型は役場1階ホールに展示しておりますので、皆さんぜひご覧ください。



▲素晴らしい模型を製作して頂いたあらかわ遊園伊藤館長(写真上)と森さん(写真右)



高校生が気持ちを込めて作りました

只見駅に木製のパンフレットスタンドを制作

県は平成23年度から高等学校などと連携しながら、県民の皆さんの目に触れやすい公共建築物などに県産材製品を利用・展示し木の温もりや、やすらぎのある空間を提供する新「ほっと」スペース創出事業を実施していますが、今年度は只見高校生が只見産のスギの木を使用して木製パンフレットスタンドを制作しました。

制作は只見高校の生徒会が中心となり6台のパンフレットスタンドを完成させ2月23日に贈呈式が行われました。

木製のパンフレットスタンドは只見駅で使用されていますので、ぜひ只見駅に足を運んで高校生の力作を見て欲しいと思います。



▲作り方を教わりながら、町の為に一生懸命作ってくれました



ユネスコスクール朝日小学校

「只見愛」を育む授業を公開

ユネスコスクールに認定されている朝日小学校は、ESD(持続可能な社会を構築する担い手を育む教育)をおとして、家族や地域に誇りを持ち夢や目標に向かって学び続ける「只見愛」の育成に取り組んでいます。2月9日にESD授業公開が行われました。

授業は、只見の自然について学ぶものや、食文化の素晴らしさを考えるもの、地域の方から直接話を聞くものなどが行われ、6年生は只見町の少子高齢化問題を解決するためのアイデアをグループごとに発表し、発表内容を町の政策担当者との意見交換をする小学生とは思えない素晴らしい授業を見せてくれました。



▲子供ならではの自由な発想から様々な意見が発表され、只見を思う気持ちも十分に感じられた授業でした



伝統芸能を次の世代へ

明和小学校 伝統芸能発表会

2月26日、明和小学校で伝統芸能発表会が行われ、4年生が梁取神楽、3年生が小林早乙女を発表しました。それぞれ保存会の方から踊りや笛、太鼓に三味線などを教わり、この日集まった地域の皆さんの前で発表しました。

3年生の小林早乙女、4年生の梁取神楽どちらも大変素晴らしく、集まった地域の皆さんは「上手だ！」声を出して関心したり、一緒に歌を口ずさんでいました。また、大人とは違った子供ならではの軽快な足の動きに会場からはたくさん笑いも起き、只見の伝統芸能が次の世代へとしっかりと引き継がれている事が確認できた発表会でした。



▲▶小林早乙女(写真上)と梁取早乙女(写真右)とても上手なのでもっとたくさんの方に見てもらいたいです



只見の米に自信を持とう

食味向上研究会試食会

只見産米・食味向上研究会は、平成27年の只見産米と他地域の高価格で取引されている米や全国コンクールで入賞した農家の米等を試食し、食味・香り等の項目別に比較を行いました。

炊飯方法や水加減は、米の水分含有量を図る等して詳細に決められた手法で行い、産地を隠して米穀店の方や水稲普及関係者の方々に試食評価して頂きました。

試食の結果、温かい状態でも冷めた状態でも只見産米は高価格で取引きされている米と同等又はそれ以上の評価結果を得ました。

当研究会では、土壌検査の結果等を基にした施肥設計の見直しや食味向上に関する取組み、只見産米をつくる自然環境等の調査を行う予定です。



▲やっぱり只見のお米は美味しいんです!

14名が新たな一歩

山村教育留学生 第12期生送別式

只見高等学校卒業式の前日、2月29日に只見振興センターで只見町山村教育留学生第12期生の送別式が行われました。山村教育留学生は11期生までは近隣町村からの生徒だけでしたが、この12期生から千葉県柏市や東京など遠方からも生徒が来るようになりました。

送別式は、齋藤教育長のあいさつ、目黒町長、NPO法人ゆいネット只見の目黒理事長から祝辞が述べられた後、只見町山村教育留学生12期生の14名は、卒業生の言葉として3年間の自分の成長と進路、そして後輩へのメッセージを一人ひとりが発表しました。親元を離れ只見町で寮生活をする事で精神的に成長する事ができ、その経験をこれからの進路でも生かしていきたい事、そして在校生には勉強する事の大切さなどを卒業生としてしっかりと伝えていました。



▲只見での3年間の生活を糧にこれからも頑張ってください